

「受験生は忙しい ～第48回文化祭⑤～」

校長 江口 満

【前号からの続き】キャストの練習は一学期の後半、保護者会と同時進行で始めた。キャストに40ページもある分厚い台本を渡す。生徒は一律に不安げな様子。毎日10ページずつ練習をしていくことにする。キャスト総勢30名の大所帯。登場人物も生徒役や教師役共に個性豊かな設定だ。熊本弁、大阪弁、東北弁、名古屋弁あり。セリフの言い回しも



ダンス部「ITZY」「まうお」

多彩だ。キャストの動きも目まぐるしい。でも練習会場では、生徒たちの一言一言に、一挙手一投足ごとに笑いの渦が巻き起こった。一時間半の練習時間が、一瞬で過ぎ去っていった。二学期に入り一時間の放課後練習を開始。体育祭後には、台本なしで練習を開始したところ、セリフが止まり、場面が一向に進まなくなる。

でも日々の練習は充実して楽しかった。しかし、困ったことが生じた。受験生はこの時期とにかく忙しいのである。部活動はすでに引退しているのだが、文化祭に向



けて生徒会執行部の取り組みや塾などで、次々とキャストが練習会場から抜けていく。というか、キャスト曰く「未だ全員が揃ったことがない。」中間考査を終え、少し焦った私は、30分間の朝練を提案。でも受験生は、朝が苦手なのか…。

ちょうどその頃、ダンスを指導されているH先生からダンスチーム「ITZY」の話聞き、「ITZY」の様子を初めて見に行った。私の心に衝撃が走った…。【次号に続く】



「ITZYダンスリーダー」 3年1組 Tさん

私は、文化祭でダンスリーダーをしました。私たちのダンスメンバーは、夏休み頃から練習を始め、約三か月間の練習に励みました。ダンスを一から始める人のほうが多かったので、夏休みの間もたくさん練習し、文化祭の時に完璧なダンスを保護者や生徒、先生方に披露できるようにと、それを頭に入れながら練習をしました。夏休みも終わり、毎日放課後に残って練習し、ようやく形になってきました。振りもみんな覚え、立ち位置決めもたくさん悩み、話し合いながら決めることができました。



本番当日、衣装もみんなですろえ、メイク、髪の毛もかわいくステージへ。私は緊張というより、最後まで全力で踊り切ろうという気持ちのほうが大きかったです。全4回を踊り終えたあと、達成感と同時にもう練習がなくなると考えたとき、さみしい気持ちになりましたがとても良い思い出になりました。

本番当日、衣装もみんなですろえ、メイク、髪の毛もかわいくステージへ。私は緊張というより、最後まで全力で踊り切ろうという気持ちのほうが大きかったです。全4回を踊り終えたあと、達成感と同時にもう練習がなくなると考えたとき、さみしい気持ちになりましたがとても良い思い出になりました。



「中学校最後の舞台」 3年1組 Oさん

私は、ダンスチームの一員として夏休みから練習を重ねてきました。最初は上手くいくのか不安が大きかったけど、約三ヶ月間、チームのみんなと協力して文化祭を終えることができました。私は一年生のとき、三年生で劇をするときはダンスをしたいと思っていたので、とても楽しかったです。文化祭は学年全体で創り上げる最後の舞台だったので、三年生全員が本気で取り組



めた最高の思い出になる行事でした。

練習をする中で、ダンスチームの他のメンバーやキャスト、他の係の人が文化祭に向けて頑張って準備している姿を見て、私ももっと頑張らないといけないという気持ちになりました。この大きな行事で学んだことや目標に向かって努力する気持ちを忘れずに、これからに活かしていきたいです。

「最後の文化祭」 3年2組 Mさん

中学校生活で最後の文化祭がありました。私が文化祭で一番楽しかったのはダンスです。夏休みが入ったり、体育祭があったりして練習期間が短くて少し焦っていたけど、チームの人たちと一致団結して全力で踊り切ることが出来たので、本当に楽しかったです。キャストやモザイク、衣装、小道具など三年生全員が一つになって、先生方、家族、下級生、そして自分自身も全力で楽しむことが出来たと思っています。

ダンスでは、「ITZY」と「チューチュートレイン」を踊りました。「ITZY」では、服装も韓国風にして化粧もしました。全員がそろって楽しんで踊ることが出来ました。

「チューチュートレイン」では、服装もストリート系にしてキャップをかぶって踊りました。最後まで一緒に卒業できるのがこのメンバーで良かったと思います。



「感謝の気持ちでいっぱい」 3年3組 Aさん

ITZYのメンバーとして迎えた本番。待機時間、友だちとメイクをして、ヘアアレンジをしてもらってとてもわくわくドキドキしていました。本番が近づいてくるにつれ緊張は高まり、口から出るのは「緊張する。間違えたらどうしよう。」の言葉ばかりでした。そんな様子の私に友だちが、「大丈夫だよ。」と声をかけてくれて、緊張を自信に変えることができました。舞台が暗転し、私たちの出番となりました。最初のポーズをとり、照明が当てられると、プロになり切ったつもりで最高の笑顔でパフォーマンスをしました。正直踊っていたときのことはあまり覚えていないけど、ステージで踊ったことが本当に楽しかったというのははっきり覚えています。

本当に楽しかった文化祭。一瞬で終わってしまったような気がして今も寂しいです。(中略)応援してくれた家族や友だち、指導してくださったH先生、アドバイスしてくださったK先生、そしてダンスのメンバーたち、たくさんの人たちに支えていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。

「ダンスチームに入って良かった」 3年3組 Sさん

私たちのダンスチームは、夏休みから練習を開始しました。このITZYは五人で踊る曲なので、大人数用のフォーメーションを覚えることがとても大変でした。(中略)そして本番の日、控室でメイクをしたり髪型をセットしたりしてみんなで気合を入れました。リハでは顔がこわばってしまい笑顔で踊ることができなかったのですが、笑顔を意識して踊ることにしました。実際にステージに上がってみるととても人が多くて少し緊張してしまいましたが、間違えることなく最後まで笑顔で思いっきり楽しむことができました。



文化祭が終わり、「楽しかった。」「やり切った。」と思う反面、もう二度とこの仲間と踊ることが出来ないと思うと、「終わってほしくなかった。」と少し悲しい気持ちになります。しかしこの文化祭で様々なことを学ぶことができたので、ダンスチームに入って良かったと思います。



「諦めずにやってよかった」 3年3組 Nさん

ダンスチームの一員として、夏休みから学校に来て練習したが、私は塾であまり練習に参加できずにいた。そのため、周りよりフリを覚えるのが遅く、間違いなく足を引っ張っていたと思う。それがスランプにつながり、一度辞退しようとも考えた。だが、リーダーや友人が細かいところまで念入りにフリを教えてくれた。ここまで自分に時間を使ってくれているのに、諦めようと思ったことが恥ずかしくて悔しかった。それからダンスに対する姿勢を変える必要があると考え、家に帰っても必死でフリを覚えた。



本番前日、チームで最後の練習をした。一人一人が音楽の音に合わせて全員で動きをそろえようと協力した。また、モザイクアートが完成したと聞き、見てみると細かく塗ったマスが大きな一つの絵へと変わっていた。そこには、数えきれないほどの時間とたくさんの人の努力がにじみ出ているようだった。

文化祭は大成功に終わった。本番のステージの上の私たちは今までで一番輝いていたと思う。諦めずにやってよかったと心の底から思った。

